

### 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

#### 1 めざす学校像

1948年新制高校として創立以来、72年目の伝統校として、いよいよ最終年度を迎える。以下の「めざす学校像」を実現するため、力を尽くす。

人から認められることの喜び・勉強がわかることの楽しさ・様々な個性との触れ合いを体験することにより、生徒が自分の将来を創造する意欲と能力を身につける学校をめざす。

- 1 基礎学力の定着を図ることで、自己実現できる人材を育成する。
- 2 自尊感情や規範意識をもち、自ら判断し行動できる人材を育成する。
- 3 多様な価値観を認めることができ、人と協働できる人材を育成する。
- 4 生徒の地域貢献活動や地域人材を生かした教育活動などを通して、地域と連携する学校をめざす。

#### 2 中期的目標

- 1、基礎学力を定着させる取り組み
  - (1) 学習活動の充実
    - ア 生徒が主体的に学べるように、アクティブラーニング授業を推進する。
    - イ より生徒の学習意欲を高めるようシラバス等の改善を進める。
    - ウ 基礎学力を向上させるための教材づくりに取り組む。
    - エ 生徒一人ひとりの課題に対応した学習支援に組織的に取り組む。
  - (2) 分かる授業、充実した授業づくり
    - ア 授業力向上のために、研究授業や授業見学を積極的に実施する。
    - イ 全教科でICT機器や視聴覚教材等を活用した授業の導入を推進する。
    - ウ 授業アンケート・学校教育自己診断・基礎力診断テストを分析し、授業改善につなげる。
    - エ 生徒が発表する機会が多い授業づくりに取り組む。
- 2 自尊感情や規範意識を育てる取り組み
  - (1) 社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成
    - ア 基本的生活習慣について、より丁寧な指導を行うことで、学校への定着を図る。
    - イ 部活動や学校行事を通して、コミュニケーション力の育成に努める。
    - ウ ボランティア活動、体系的キャリア教育、地域連携などの取り組みにより、生徒の自尊感情を育成する。
    - エ LHRや総合学習での学びや体験を通して「他者への思いやり」ができる社会人としての基礎力を身につけさせる。
  - (2) 生徒理解の促進と相談体制の確立
    - ア 常時、関係者間で生徒情報を共有することにより、課題のある生徒を早期に発見・対応し、不登校や中途退学を減らす。
    - イ 生徒の実態把握のため、家庭連絡・家庭訪問に努め、中学校とも連携する。
    - ウ 外部人材も活用しながら、生徒相談体制と支援教育体制の充実に取り組む。
- 3 人と協働できる人材を育成する取り組み
  - (1) 夢と志を育むキャリア教育の確立
    - ア 3年間のキャリア教育、進路指導を体系的に実施してきた。最終年度に当たってそれを生きて働く知識とし、進路決定率を保持する。
    - イ 外部講師や地域・卒業生の人材を活用することで、生徒が自らの将来について考える意識を育てる。
    - ウ インターンシップや職場見学を充実させ、生徒の進路実現を促進する。
    - エ 部活動や「体育コース」を充実することで、規律正しく協調性のある人材育成を促進する。
- 4 地域と連携するための取り組み
  - (1) 地域との連携・交流
    - ア 生徒一人ひとりの状況を把握し、適切な支援を実施するために、保護者・地域・中学校と連携する。
    - イ 清掃ボランティア活動や地域行事への参加などを通して、地域との交流を深める。
    - ウ PTA活動を活性化させ、保護者と教職員が力を合わせた学校づくりを進める。
  - (2) 広報活動の充実
    - ア 学校HPを更新し、本校教育活動についての情報発信を充実させる。
- 5 学校の運営体制に対する取り組み
  - (1) 学校改革の推進
    - ア 研修などを計画的に企画し、教員が成長するための学びを継続させる。
    - イ より充実した教育活動が展開できるように、校内設備の改善に取り組む。
    - ウ 本校の特色や状況に応じた長時間勤務の縮減に向けた取り組みや、時間や健康の管理を徹底し、「働き方改革」に取り組む。

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒、保護者については、「泉尾」と「大正白稜」両校の質問項目も異なるため、分けて実施。教職員は、全教職員統一で実施。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>・「わかる授業」「生徒が自ら取り組む授業」の実現に向け、グループワークやアクティブラーニング等に積極的に取り組んだ。「わかる授業づくり」についての肯定的な回答が、教員向けで 81.4%であるのに対し、生徒向けでは 65.1%。この差をできる限り少なくすることが今後の課題。</p> <p>【生徒指導等】</p>	<p>【第 1 回 7 / 25 開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府の定員割れの状況が知りたい？</li> <li>3年連続して定員割れの状況は、条例により再編整備の対象となる。公立の強みは、生徒 1 人あたりの教員数が手厚い。魅力発信が課題。</li> <li>・少し昔は、怖いというイメージ。最近の取組みは改善のイメージが強い。中長期的に取組むことが重要と認識。</li> <li>・リーディングスキルの取組みは、方向性として間違っていない。</li> </ul>

府立泉尾高等学校

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導室、進路指導室への常駐教員を配置、居場所カフェ開所による相談支援体制の構築など生徒との面談に積極的に取り組んだ。「担任以外にも気軽に相談できる教職員がいる」と回答した生徒は 71.6%。教育相談の重要性を全教職員で再確認し、生徒が安心・安全に学校生活を送れる環境をより一層強化する必要がある。</li> <li>・キャリア教育の充実に対する肯定率が当初目標を達成(76.1%)。教員間で情報共有できる体制が整いつつあるが、更なる組織強化が必要と感じる。保護者の回答も 87.7%と高水準の回答を得ており、進路保障の充実に向けて全教職員が積極的に取り組んでいる成果。</li> <li>・学校と家庭の連携について、学校情報の提供についての保護者の肯定的回答が 84.2%。積極的なブログ更新や毎週配信のまちコミメールへの登録が浸透している結果。本年度より公式ツイッターも開始。</li> </ul> <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動について、「情報の共有」については、81.4%と高い数値を示しており校内での ICT ツールを利用した円滑な業務遂行環境が整いつつある一方で、「教職員での日常的な話し合い」の肯定的回答率 53.5%と教職員の多種多様な授業準備時間を確保せねばならず、空き時間の確保が大きな課題と認識。時間外勤務時間は、昨年度から 20%程度減少。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善に向けて、多くの先生がいろんなことに取り組む姿勢を多く感じられる。会議における紙使用削減に取り組む先生や自ら学校を変えていこうという前向きに取り組む先生が数年前と比べて非常に多い。</li> <li>・「できたことノート」はとても素晴らしい。定着化が今後の課題。</li> <li>・HP を積極的に活用し、学校の PR に努める。</li> </ul> <p>【第 2 回 11/25】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革について、どのような対応ができるのか？ 職員会議の回数の見直しや部活動においては、複数顧問制にすることで負担軽減につながる。</li> <li>・公式ツイッターについてフォロワー数と更新頻度？ フォロワー数 133 名、更新頻度は原則毎日。</li> <li>・指定校推薦の大学数は？ 30 校程度</li> <li>・将来的に文化祭を 2 日間実施する理由？ 内容の充実に伴い、様々な活動の場を生徒に提供していきたい。</li> <li>・就職、進学生徒の割合はどうか？ 年度ごとに傾向がさまざま。今年度は 7 割近い生徒が就職を希望。</li> <li>・スクールカウンセラーの利用状況 3 年生の活用が多い。各学年 3 ~ 4 名の生徒が利用し、約 30 分の面談を実施。</li> </ul> <p>【第 3 回 2 /17】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断アンケートの「あてはまらない」項目が重要</li> <li>・アンケートにおけるマイナスを消す努力しても良い</li> <li>・部活動の加入率とアルバイトの関係について学校は把握すべきである。</li> <li>・土曜日での発表大会はどんな形で実施するのか 文化祭と抱き合わせで実施し、地域の中学生等に向けて発表予定</li> <li>・高等教育機関との連携について、いくつかの大学名が出たが、特定の大学に限定しているのか 限定はしていない。お声掛けいただいた大学と進めているのが現状 (委員より)大阪商業大学を紹介したい</li> <li>・広報の手段は、現在、どのような現状か 土曜日を中心に学校説明会や個別相談会を実施し、空き時間での中学校訪問を実施</li> <li>・生徒の学校へのイメージと学校が求める生徒像にズレがあるのでは？ ホームページ等でうまく発信していきたい</li> <li>・不登校の生徒が多様化しているため、様々な対応をされているのは評価できる</li> <li>・保護者は高校のことをあまり知らないため、今の実態を発信すべき</li> <li>・総合学科として、中長期的に考えていく必要がある。特に、部活動等において斬新な発想が必要であろう。</li> </ul>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力を定着させる	(1)学習活動の充実	ア・グループ学習・プレゼンテーションなど、生徒に興味関心を持たせるアクティブラーニング授業導入の推進。	ア・生徒向け学校教育自己診断の「授業に工夫」の肯定率 70%以上(H29:69% H30:76%)	ア 生徒向け自己診断「授業では、発表やグループ活動、実験・実習、など、様々な取り組みの工夫がある」肯定率 65.1%( )
	(2)分かる授業、充実した授業づくり	ア・授業アンケート結果を分析し、各教員個人や教科で「振り返り」を行うことで、授業改善につなげる。 イ・校内や他校の研究授業や授業見学、および授業力向上研修への参加に積極的に取り組み、授業改善に生かす。 ウ・授業見学週間を設定し、教員相互の授業見学と授業に対する意見交換を行うことにより、各教員の授業力向上に取り組む。	アイウ ・生徒向け学校教育自己診断の「授業理解」の肯定率 60%以上(H29:52% H30:68%)	アイウ ・授業アンケートの分析、振り返りを各教員で行った ・授業見学週間の拡充 10月29日~11月15日 ・リディングス研究授業実施 11月8日(市教委研修指定) 「授業理解」肯定率 70.6%( )
2 自尊感情や規範意識を育てる	(1)社会人として必要なルール・マナーの習得と生きる力の醸成	ア・生活面で生徒を指導するにあたっては、生徒に寄り添う気持ちを持って粘り強く取り組む。 イ・LHRや総合学習の時間を中心に、「他者を思いやる心」を育てる取り組みを充実させる。 ウ・文化祭、体育祭などの学校行事、校内美化や校内緑化等の委員会の活動および部活動を充実させる。	ア・生徒向け学校教育自己診断で「先生の指導に納得」の肯定率を 60%以上(H29:52% H30:71%) イ・生徒向け学校教育自己診断で「人権」の肯定率を 70%以上(H29:65% H30:76%) ウ・生徒向け学校教育自己診断で「生徒会活動」に対する肯定率 70%以上(H29:63% H30:76%)	ア 生徒向け肯定率 72.5%( ) ・遅刻減少(前年度同時期比 5%減) イ 生徒向け肯定率 72.5%( ) ・人権 HR 実施 命の大切さ・デートDV・いじめ問題・共生社会の実現など ウ 今回生徒会活動の項目なし ・体育祭 5/31、文化祭 11/2 ・春クワーク 375 名参加

## 府立泉尾高等学校

	(2)生徒理解の促進と相談体制の確立	<p>ア・生徒個々の課題に対応する学校の体制(相談委員会・人権教育委員会・支援チームなど)を充実させる。また、「課題を抱える生徒フォローアップ事業」(居場所型)を効果的に活用し、外部人材を活用して生徒の支援につなげる。</p> <p>イ・要配慮生徒に対する校内体制の充実に取り組み、諸課題を解決する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断で「生徒相談」に対する肯定率 55%以上(H29:59% H30:60%)</p> <p>イ・個々の生徒に対する支援計画に基づき必要のある各生徒に対しケース会議を複数回開催する。(H30:11件 23回(大正白稜含む))</p>	<p>ア 生徒向け肯定率 71.6%( )</p> <p>・課題早期発見のための「わたしかみ」の実施(昼休み、放課後)</p> <p>・教育相談委員会、人権教育委員会、いじめ防止対策委員会等の教育支援体制の確立</p> <p>イ(H:31:12件 22回( ))</p> <p>・中学校との情報交換</p> <p>・中学校教員との連携</p>
3 人と協働できる 人材を育成する	(1)夢と志を育むキャリア教育	<p>ア・職業適性診断テスト、インターンシップ、職場見学、進路別・分野別説明会、大学訪問、奨学金説明会等を体系的に計画し生徒の進路実現に結びつける。</p> <p>イ・外部講師、地域人材や卒業生などを活用し、生徒の進路意識を高める取り組みを充実させる。</p>	<p>ア・就職内定率 100%、進路決定率 85%以上を維持。(H29:85.7% H30:94.7%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断で「進路を考える」の肯定率を 75%以上(H29:73% H30:79%)</p>	<p>ア</p> <p>・卒業予定生徒の進路決定状況(R1:92%)</p> <p>イ 生徒向け肯定率 76.1%( )</p> <p>・キャリアコンサルタントとの連携</p> <p>・NPO 団体、大正区内企業との連携</p>
4 地域と連携する	(1)地域との交流	<p>ア・地域イベントやインターンシップ、進路行事など様々な機会を通して、地域の幼稚園、小、中学校、介護施設、区役所、企業等と交流を深める機会を設ける。</p> <p>イ・学校行事等に来校する保護者を増やすことで、行事に取り組む生徒達の意欲を高める。またそれによりPTA活動の一層の活性化を図る。</p>	<p>ア・年間5回以上の交流機会を設けることができたか。</p> <p>イ・体育祭、文化祭、公開授業に来校する保護者数の増加 5%以上(H29:376名 H29:415名(大正白稜含む))</p>	<p>ア( )</p> <p>ものづくりフェア 24時間TV</p> <p>大正区内インターンシップ 幼稚園体験</p> <p>インターンシップ 受入 小中学校向けRS公開授業</p> <p>イ( )</p> <p>・体育祭来校者 214 (昨年 211)</p> <p>・文化祭来校者 160 (昨年 174)</p>
	(2)広報活動の充実	<p>ア・ホームページ等による情報発信を充実させる。</p>	<p>ア</p> <p>・定期的に更新できたか。</p>	<p>ア・学校行事等の「ブログ」更新</p> <p>・公式ツイッターの更新</p> <p>・生徒会通信の発行(月1回)</p>
5 学校の運営体制	(1)学校改革の推進	<p>ア・全教職員が「自らも学校づくりに参加している」という意識をもてる取り組みを進める。</p> <p>イ・計画的な教職員研修の実施</p> <p>ウ・学年が連携した学校運営</p> <p>エ・「働き方改革」に取り組む。学校閉庁日や定時退庁日の設定、部活動のガイドラインに沿った取り組みを進める。</p>	<p>ア・教員の学校教育自己診断で「教職員の意見が反映」の肯定率 60%以上(H29:52% H30:76%)</p> <p>イ・年間5回以上の職員研修を実施できたか。</p> <p>ウ・教職員による学校教育自己診断で「学年間連携」の肯定率 60%以上(H29:65% H30:57%)</p> <p>エ・学校閉庁日、定時退庁日の設定。部活動ガイドラインの徹底。</p>	<p>ア 教職員肯定率 69.8%( )</p> <p>イ( )</p> <p>・熱中症対策 5/10・AED 講習 7/3</p> <p>・教育相談 9/4(進路支援)</p> <p>・人権 10/2(共生の未来)</p> <p>・授業づくり 10/26(研究授業)</p> <p>・授業づくり 2/5(公開研究授業)</p> <p>ウ 学年間連携肯定率 53.5%( )</p> <p>・学年主任会議の定例化</p> <p>エ・学校閉庁日(夏季・冬季)</p> <p>・職員会議回数削減(月2 1)</p> <p>・時間外勤務平均値 47.7(昨年比 20%減)( )</p>